

山形市出羽地区調練保存会「通称 ていひやらや」軍楽隊

村山 正市

秋元氏は譜代大名として寺社奉行、老中、奏者番を勤めた。弘化 3 年（1846）～明治 3 年（1870）に廃藩置県により、山形県に属し陣屋が廃止されるまでの約 20 年間続く。館林藩士と家族が高揃陣屋を含めて、多い時で約 300 名が暮らした。弘化 3 年に漆山陣屋改築修繕の際に浄土院が一時「秋元但馬守様借御役所」となった。浄土院には秋元家御位牌が祀られている。

漆山は戊辰戦争時に館林藩の陣屋が置かれたところである。館林藩 6 万石（実高 11 万石）の内 4 万 6 千余石の分領であり、館林藩も官軍に味方した。天童では明治 17 年に建勲神社の祭典において、明治初期に作られた軍楽隊を再結成したとされる。慶応 4 年（1868）に官軍奥羽鎮撫使先導役として藩主信学に代わり、中老吉田大八が先導役代理で隊列により奥羽街道を北上し天童に入る。その隊列の中に、奥羽鎮撫軍楽隊からイギリス式軍隊行進曲（通称維新マーチ）を伝授され演奏したのが「維新軍楽隊」である。それを模倣した出羽調練保存会「通称 ていひやらや」は、天童藩の「維新軍楽隊」に倣い導入（かつて漆山を通った官軍の姿が影響した）された。漆山では昭和 30 年代に一時途絶えたが、昭和 62 年に保存会が結成され復活、9 月の出羽地区稻荷神社例大祭で奉納・行列していたが、令和に入り人員不足から休会状態になっていると浄土院住職から伺う。維新軍楽隊は、現在、天童南部小学校維新軍楽隊（イギリス式）と上山藩鼓笛楽隊（フランス式の軍隊調練）が継承している。

出羽地区調練保存会

秋元家御位牌（安養山浄土院）

